

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300451	事業の開始年月日	2023年1月15日	
		指定年月日	2023年1月15日	
法人名	株式会社夢眠ホーム			
事業所名	グループホーム夢眠せんだい ユニット名：2階			
所在地	(〒 984-0073) 宮城県仙台市若林区荒町15番3号			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年7月15日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的な介助が不可欠な状態でも、最期まで自宅と同じように穏やかな環境の中で過ごせる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年8月8日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

施設運営方針に基本理念と5つの活動方針がある。「基本理念」ご利用者様の心身の状態を理解し、ご利用者様個々に応じた個別ケアを実践し、生活をより豊かに感じられる人間らしい尊厳のある生き方を支援いたします。

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人は岐阜県可児市にある「株式会社夢眠ホーム」で、全国に介護事業を展開している。宮城県でも有料老人ホームやデイサービス、グループホーム等を運営している。以前は別法人がショートステイとグループホームを運営していたが、現在の法人が利用者と職員をそのまま引き継ぎ、2023年1月に「グループホーム夢眠」として運営を開始した。事業所は、地下鉄南北線五橋駅に近く、歯科医院や薬局、昆沙門天、ラーメン店、コンビニなど、便利でにぎやかな商店街の通りから少し入った静かな場所にある。3階建ての建物の1階には看護小規模多機能居宅介護事業所があり、2階・3階で2ユニットのグループホームを運営している。

【事業所の優れている点・工夫点】

事業所は特定疾患などの介護度の重い人も受け入れている。2階ユニットは介護度の重い人が多く、1階の訪問看護ステーションと連携を図りながら支援している。管理者と職員は互いに母体法人の変更による運営方針の違いを確認しながら話し合い、支援や運営に活かしている。運営推進会議はコロナ禍で書面での開催だったが、新しい事業所で開催する際も引き続き町内会長や商店街の役員等に参加依頼をしており、今後活発に情報・意見交換のやり取りが期待できる。管理者は町内会の会議等に参加し、情報交流をしている。地域のお祭りや子ども会の廃品回収にも参加し交流を深めている。歩いて行ける昆沙門天や商店街は散歩や好きなおやつ、お弁当を買いに出かける等、利用者の楽しみになっている。利用者の出かけたという思いにも応え、同法人の他事業所から車を借りてドライブを楽しんでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホーム夢眠せんだい
ユニット	2階

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム夢眠せんだい ）「ユニット:2階」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	概ね実践できている	法人の「施設運営指針」に基本理念、活動方針を記載している。管理者（施設長）が本部研修の際に理念や方針、目標について学んだことや得た情報を、月1回のミーティングで、職員に伝えている。2023年に新たに開所したばかりなので、今後も地域に根差したホームになるように取組みたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なかなか実践できていない	町内会に加入しており、回覧板や管理者が町内会の会議に参加した際に、地域の情報を得ている。近くにある毘沙門天の祭りでは神輿巡業が立ち寄ってくれた。また、子ども会の廃品回収に協力した際に、終了後に立ち寄ってくれた子ども達へ利用者がおやつを渡すなど、地域との交流を深めている。地域のハロウィンや福祉プラザ祭りなどにも参加している。今後は、事業所自ら主催する地域交流事業を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の会議の場で発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見をいただき、日頃のサービスに活かそうとしている	隔月、地域包括職員、町内会長、荒町地区連合町内会長、荒町商店街組合理事がメンバーとなり開催している。コロナ禍で、書面により活動状況、研修、ヒヤリハット、感染症対策などを報告している。今後、対面での会議開催を模索中である。全家族へ案内しているが、まだ参加した人はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の行事に参加したり運営推進会議開催時に取り組んでいる事項の内容を伝え、情報を共有している	地域包括支援センターから情報が提供され、連携している。地域から民謡を聞く会、福祉プラザ祭り、小・中学校の演奏会、ハロウィンパーティーなどの情報提供があり、利用者が参加している。区役所には介護保険の更新時などに連携を図っている。生活保護課とも都度連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い職員が内容を理解できる環境を整え実践している	月1回、身体的拘束適正化検討委員会を開催している。委員である担当職員が講師になり定期的に研修を行っている。外出要求が強い人には、気持ちが落ち着くまで会話をしながら廊下を一緒に歩くなど、状況に合わせ支援している。ユニットは2・3階にある。交通量が多い地域にあるため利用者の安全を考慮し、エレベーターは職員が操作し階段の入り口のドアも電子ロックで対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を行い職員が内容を理解できる環境を整え実践している	虐待防止委員会は3ヶ月に1度開催している。事業所の職員も委員会のメンバーで、出席した職員が伝達講習をしている。不適切な言葉遣いやケアについて、互いに気を付け注意し合っている。管理者は日頃から職員によく声かけするように努めている。管理者とユニットリーダーは、職員から相談や報告を受け必要があれば面談し、ストレス軽減に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い職員が内容を理解できる環境を整え実践している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族等の不安や疑問点を聞き取り、十分な説明を行い理解・納得を図ろうとしている。利用者本人から尋ねられた際はわかりやすい言葉に置き換えてその都度説明している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、運営に反映させようとしている	2月から対面式の面会と外出を再開している。家族から面会や電話などで意見や要望を聞いている。利用者の状態変化については細やかに連絡している。毎月請求書と写真、職員からの状況報告などの「お便り」を家族に送付している。家族からはなるべくレクリエーションに参加させてほしいとの要望があり、みんなと一緒にの場所で過ごせるよう取組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、対応しようとしている	管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にし、いつでも意見や提案など出しやすい環境作りに努めている。必要に応じて面談も実施している。月1回のミーティングなどでは、職員から看取り対応やケアの手法について提案があり、検討し介護計画に盛り込むなど実践に繋げている。職員は、レクリエーションや身体的拘束適正化等、5つのいずれかの委員会に所属し、意見や提案など運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内の研修を受ける機会の確保や、働きながら知識を習得していくことを進めている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターから情報提供された研修に参加している。管理者は法人の全体会議にリモートで参加し、各拠点にある事業所の取組みを参考にし運営に活かしている。宮城県内の同法人の事業所とも情報交流をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、支障となっていること、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等を聞き出し、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、どのような対応が必要か検討している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築こうとしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築こうとしている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう聞き取りを行い、対応しようとしている	コロナ禍を考慮しつつ、人や場との関係継続を支援している。利用者は職員と一緒に日常的に毘沙門天に散歩に出かけたり、近隣の商店街で外食やお弁当など、買い物を楽しんでいる。近所の訪問理・美容を利用しているが、行きつけの美容院へ行く人もいる。家族とお墓参りなどに出かける人もいる。電話の取次ぎや自身の携帯電話で家族と話せるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような対応を心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めようとしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討しようとしている。	家族からの話や生活歴を参考に意向を把握している。会話が困難な人でも、よく話しかける事で通じ合えることもあり、表情を見て思いをくみ取っている。把握した意向は利用者ごとのノートに記入し、申し送りでも伝えて職員間で情報共有している。レクリエーションの計画作りには、選択肢を示し利用者も一緒に参加できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め実践しようとしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等は異なることを理解し、把握しようとしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は管理者と計画作成担当者で作成している。計画は長期6ヶ月、短期3ヶ月で評価し目標を見直している。利用者の状態変化時には、都度医師の意見を聞き見直している。評価時には職員から意見を聞き、家族からは面会時や電話などで要望等を聞き反映している。家族からは「できることは自分でさせてほしい」などの意見があり計画に盛込むよう努めている。遠方の家族には電話や手紙で意見を聞き、計画について説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かそうとしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組もうとしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しようとしている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を確認し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を受診できるようにしているが、全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。深夜帯の連絡も可能な24時間体制でいつでも連携ができる。専門医の通院は家族付添いを基本としているが、付き添えない時は職員か看護師が同行している。週4日勤務の職員の看護師が、健康管理や看取り介護などへのアドバイスを行っている。1階にある同法人の訪問看護ステーションとも契約している。訪問歯科の診療も受けられるが近所の歯科に行く人もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しようとしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」があり、入居時に説明し同意を得ている。重度化した時には医師や家族と話し合い、連携しながら看取り体制を整えている。看取りの対応については申し送り時に話し合い、看護師にも相談し助言を得ている。家族が宿泊できる部屋も準備してある。職員は研修で学び、看取り後は振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、風水害、地震対応のマニュアルを整備している。避難訓練は年2回実施しており、今後1回は夜間想定で行う予定である。地域との協力体制も築かれている。年2回、業者が設備点検を行っている。食料などの備蓄の他に、発電機も準備してある。2・3階から1階への避難の際にはドアが電子キーなので停電時の操作など、今後の検討課題となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の仕方をミーティング等に職員間で検討している	接遇やプライバシーの保護について研修を行っている。排泄時にはトイレのドアを開け放さない、声かけしてから入室する、一人になりたい人への配慮など、日常支援で心がけている。排泄介助はさりげなく声かけし居室のトイレに誘導している。呼び名は入居時に本人や家族から聞き、名前や名前に「さん」を付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように環境を整えようとしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援しようとしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望等を聞きながらその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう提案・実践している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み等を聞きながら、職員が準備や食事、一緒に片付けを行っている。	メニューと食材は契約業者のものを利用し、調理は職員が行っている。利用者から好みを聞きメニューを変更したり、近くの商店街からお弁当を購入し楽しむこともある。日曜日におやつ作り用の買い物に出かける利用者もいる。誕生日は一人ずつお祝いし、お正月などの季節ごとの行事食は職員が準備している。利用者の状態に合わせて、とろみや刻み食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。訪問歯科と情報を共有している		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を検討し実践している利用者がいる	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握してトイレで排泄ができるよう支援している。介護度の重い人は、その人の状態に合わせてパッドを選定し、交換などを支援している。夜間帯のみリハパンやパッド使用する人もいる。居室にはナースコールが設置され、センサーマットを使用することもある。便秘対策として乳酸菌飲料や医師処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた対応を検討している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の判断で実施することが多い	2階のユニットには介護度が重い利用者が多く、週2回の入浴を基本に支援している。安全に配慮しながら3階の職員と協力し、1階の看護小規模多機能事業所での機械浴やシャワー浴を行い清潔保持に努めている。3階のユニットでは、毎日入浴したい人や順番にこだわる人など、希望に合わせて支援している。湯はかけ流しで、季節に合わせて『ゆず湯』にするなど、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう医療機関とも相談しながら支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認ができるよう対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や特性を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援がなかなかできていない		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に近所の神社まで散歩に出掛けている	日常的に、近くの商店街への買い物や毘沙門天へ散歩に出かけたり、一人ひとりの希望を聞き外出できるよう支援している。秋保や外食に行きたいなどの希望があり、同法人の車を借りて車椅子の人も一緒に出かけている。笹かま館に行きたいとの希望もある。町内会や地域包括支援センターから情報提供があり、地域の祭り等に参加し楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援できていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をする支援をしている		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側にリビングやキッチン、居室があり明るい。北側にはお風呂やトイレ、エレベーター、階段がある。廊下には手すりが設けられ職員と一緒に歩く利用者もいる。リビングのテラスに置かれたプランターで、花を育て、世話をする人もいる。壁には利用者と一緒に行った季節の壁飾り、日めくりカレンダーがある。温・湿度は職員が管理し空気清浄機を置いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、ベッド、クローゼット、3段ボックス、床頭台が備え付けられている。利用者はチェスト、タンス、テレビなど馴染みの物を持参し、動線に配慮しながら家具を配置している。家族の写真や、行事の写真など好きな物を飾り、居心地よく過ごしている。自分で掃除する人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300451	事業の開始年月日	2023年1月15日	
		指定年月日	2023年1月15日	
法人名	株式会社夢眠ホーム			
事業所名	グループホーム夢眠せんだい ユニット名：3階			
所在地	(〒 984-0073) 宮城県仙台市若林区荒町15番3号			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2023年7月15日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご自宅と同じような環境の中で入居者の方おひとりおひとりのできることを探り実践していただく。入居者の方と一緒に計画を立て、外出や行事、レクリエーションを行う。入居者の方に笑い声が絶えない環境の中で過ごしていただけるよう常に一緒に模索・検討している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年8月8日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

施設運営方針に基本理念と5つの活動方針がある。「基本理念」ご利用者様の心身の状態を理解し、ご利用者様個々に応じた個別ケアを実践し、生活をより豊かに感じられる人間らしい尊厳のある生き方を支援いたします。

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人は岐阜県可児市にある「株式会社夢眠ホーム」で、全国に介護事業を展開している。宮城県でも有料老人ホームやデイサービス、グループホーム等を運営している。以前は別法人がショートステイとグループホームを運営していたが、現在の法人が利用者と職員をそのまま引き継ぎ、2023年1月に「グループホーム夢眠」として運営を開始した。事業所は、地下鉄南北線五橋駅に近く、歯科医院や薬局、毘沙門天、ラーメン店、コンビニなど、便利でにぎやかな商店街の通りから少し入った静かな場所にある。3階建ての建物の1階には看護小規模多機能居宅介護事業所があり、2階・3階で2ユニットのグループホームを運営している。

【事業所の優れている点・工夫点】

事業所は特定疾患などの介護度の重い人も受け入れている。2階ユニットは介護度の重い人が多く、1階の訪問看護ステーションと連携を図りながら支援している。管理者と職員は互いに母体法人の変更による運営方針の違いを確認しながら話し合い、支援や運営に活かしている。運営推進会議はコロナ禍で書面での開催だったが、新しい事業所で開催する際も引き続き町内会長や商店街の役員等に参加依頼をしており、今後活発に情報・意見交換のやり取りが期待できる。管理者は町内会の会議等に参加し、情報交流をしている。地域のお祭りや子ども会の廃品回収にも参加し交流を深めている。歩いて行ける毘沙門天や商店街は散歩や好きなおやつ、お弁当を買いに出かける等、利用者の楽しみになっている。利用者の出かけたいたいという思いにも応え、同法人の他事業所から車を借りてドライブを楽しんでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホーム夢眠せんだい
ユニット	3階

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム夢眠せんだい ）「ユニット:3階」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	概ね実践できている	法人の「施設運営指針」に基本理念、活動方針を記載している。管理者（施設長）が本部研修の際に理念や方針、目標について学んだことや得た情報を、月1回のミーティングで、職員に伝えている。2023年に新たに開所したばかりなので、今後も地域に根差したホームになるように取組みたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できる限り交流の場を設定している	町内会に加入しており、回覧板や管理者が町内会の会議に参加した際に、地域の情報を得ている。近くにある毘沙門天の祭りでは神輿巡業が立ち寄ってくれた。また、子ども会の廃品回収に協力した際に、終了後に立ち寄ってくれた子ども達へ利用者がおやつを渡すなど、地域との交流を深めている。地域のハロウィンや福祉プラザ祭りなどにも参加している。今後は、事業所自ら主催する地域交流事業を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の会議の場で発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見をいただき、日頃のサービスに活かそうとしている	隔月、地域包括職員、町内会長、荒町地区連合町内会長、荒町商店街組合理事がメンバーとなり開催している。コロナ禍で、書面により活動状況、研修、ヒヤリハット、感染症対策などを報告している。今後、対面での会議開催を模索中である。全家族へ案内しているが、まだ参加した人はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の行事に参加したり運営推進会議開催時に取り組んでいる事項の内容を伝え、情報を共有している	地域包括支援センターから情報が提供され、連携している。地域から民謡を聞く会、福祉プラザ祭り、小・中学校の演奏会、ハロウィンパーティーなどの情報提供があり、利用者が参加している。区役所には介護保険の更新時などに連携を図っている。生活保護課とも都度連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い職員が内容を理解できる環境を整え実践している	月1回、身体的拘束適正化検討委員会を開催している。委員である担当職員が講師になり定期的に研修を行っている。外出要求が強い人には、気持ちが落ち着くまで会話をしながら廊下を一緒に歩くなど、状況に合わせ支援している。ユニットは2・3階にある。交通量が多い地域にあるため利用者の安全を考慮し、エレベーターは職員が操作し階段の入り口のドアも電子ロックで対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を行い職員が内容を理解できる環境を整え実践している	虐待防止委員会は3ヶ月に1度開催している。事業所の職員も委員会のメンバーで、出席した職員が伝達講習をしている。不適切な言葉遣いやケアについて、互いに気を付け注意し合っている。管理者は日頃から職員によく声かけするように努めている。管理者とユニットリーダーは、職員から相談や報告を受け必要があれば面談し、ストレス軽減に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い職員が内容を理解できる環境を整え実践している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族等の不安や疑問点を聞き取り、十分な説明を行い理解・納得を図ろうとしている。利用者本人から尋ねられた際はわかりやすい言葉に置き換えてその都度説明している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、運営に反映させようとしている	2月から対面式の面会と外出を再開している。家族から面会や電話などで意見や要望を聞いている。利用者の状態変化については細やかに連絡している。毎月請求書と写真、職員からの状況報告などの「お便り」を家族に送付している。家族からはなるべくレクリエーションに参加させてほしいとの要望があり、みんなと一緒に場所で過ごせるよう取組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、対応しようとしている	管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にし、いつでも意見や提案など出しやすい環境作りに努めている。必要に応じて面談も実施している。月1回のミーティングなどでは、職員から看取り対応やケアの手法について提案があり、検討し介護計画に盛り込むなど実践に繋げている。職員は、レクリエーションや身体的拘束適正化等、5つのいずれかの委員会に所属し、意見や提案など運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながら知識を習得していくことを進めている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターから情報提供された研修に参加している。管理者は法人の全体会議にリモートで参加し、各拠点にある事業所の取組みを参考にし運営に活かしている。宮城県内の同法人の事業所とも情報交流をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、支障となっていること、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等を聞き出し、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、どのような対応が必要か検討している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築こうとしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築こうとしている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう聞き取りを行い、対応しようとしている	コロナ禍を考慮しつつ、人や場との関係継続を支援している。利用者は職員と一緒に日常的に毘沙門天に散歩に出かけたり、近隣の商店街で外食やお弁当など、買い物を楽しんでいる。近所の訪問理・美容を利用しているが、行きつけの美容院へ行く人もいる。家族とお墓参りなどに出かける人もいる。電話の取次ぎや自身の携帯電話で家族と話せるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような対応を心がけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めようとしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討しようとしている。	家族からの話や生活歴を参考に意向を把握している。会話が困難な人でも、よく話しかける事で通じ合えることもあり、表情を見て思いをくみ取っている。把握した意向は利用者ごとのノートに記入し、申し送りでも伝えて職員間で情報共有している。レクリエーションの計画作りには、選択肢を示し利用者も一緒に参加できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め実践しようとしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等は異なることを理解し、把握しようとしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は管理者と計画作成担当者で作成している。計画は長期6ヶ月、短期3ヶ月で評価し目標を見直している。利用者の状態変化時には、都度医師の意見を聞き見直している。評価時には職員から意見を聞き、家族からは面会時や電話などで要望等を聞き反映している。家族からは「できることは自分でさせてほしい」などの意見があり計画に盛込むよう努めている。遠方の家族には電話や手紙で意見を聞き、計画について説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を確認し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を受診できるようにしているが、全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。深夜帯の連絡も可能な24時間体制でいつでも連携ができる。専門医の通院は家族付添いを基本としているが、付き添えない時は職員か看護師が同行している。週4日勤務の職員の看護師が、健康管理や看取り介護などへのアドバイスをを行っている。1階にある同法人の訪問看護ステーションとも契約している。訪問歯科の診療も受けられるが近所の歯科に行く人もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しようとしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」があり、入居時に説明し同意を得ている。重度化した時には医師や家族と話し合い、連携しながら看取り体制を整えている。看取りの対応については申し送り時に話し合い、看護師にも相談し助言を得ている。家族が宿泊できる部屋も準備してある。職員は研修で学び、看取り後は振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、風水害、地震対応のマニュアルを整備している。避難訓練は年2回実施しており、今後1回は夜間想定で行う予定である。地域との協力体制も築かれている。年2回、業者が設備点検を行っている。食料などの備蓄の他に、発電機も準備してある。2・3階から1階への避難の際にはドアが電子キーなので停電時の操作など、今後の検討課題となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の仕方をミーティング等に職員間で検討している	接遇やプライバシーの保護について研修を行っている。排泄時にはトイレのドアを開け放さない、声かけしてから入室する、一人になりたい人への配慮など、日常支援で心がけている。排泄介助はさりげなく声かけし居室のトイレに誘導している。呼び名は入居時に本人や家族から聞き、名前や名字に「さん」を付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように環境を整えようとしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援しようとしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望等を聞きながらその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう提案・実践している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み等を聞きながら、利用者と職員がおやつ作りをしている	メニューと食材は契約業者のものを利用し、調理は職員が行っている。利用者から好みを聞きメニューを変更したり、近くの商店街からお弁当を購入し楽しむこともある。日曜日におやつ作り用の買い物に出かける利用者もいる。誕生日は一人ずつお祝いし、お正月などの季節ごとの行事食は職員が準備している。利用者の状態に合わせて、とろみや刻み食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。訪問歯科と情報を共有している		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を検討し実践している	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握してトイレで排泄ができるよう支援している。介護度の重い人は、その人の状態に合わせてパッドを選定し、交換などを支援している。夜間帯のみリハパンやパッド使用する人もいる。居室にはナースコールが設置され、センサーマットを使用することもある。便秘対策として乳酸菌飲料や医師処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた対応を検討している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、時間や曜日、入る順番等個々に応じた入浴の支援をしている	2階のユニットには介護度が重い利用者が多く、週2回の入浴を基本に支援している。安全に配慮しながら3階の職員と協力し、1階の看護小規模多機能事業所での機械浴やシャワー浴を行い清潔保持に努めている。3階のユニットでは、毎日入浴したい人や順番にこだわる人など、希望に合わせて冬には『ゆず湯』にするなど、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう医療機関とも相談しながら支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援と症状の変化の確認ができるよう対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や特性を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や町内会や地域包括等地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう計画を立て実施している。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や町内会や地域包括等地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、近くの商店街への買い物や毘沙門天へ散歩に出かけたり、一人ひとりの希望を聞き外出できるよう支援している。秋保や外食に行きたいなどの希望があり、同法人の車を借りて車椅子の人も一緒に出かけている。笹かま館に行きたいとの希望もある。町内会や地域包括支援センターから情報提供があり、地域の祭り等に参加し楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人が買い物をしたい意向を理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側にリビングやキッチン、居室があり明るい。北側にはお風呂やトイレ、エレベーター、階段がある。廊下には手すりが設けられ職員と一緒に歩く利用者もいる。リビングのテラスに置かれたプランターで、花を育て、世話をする人もいる。壁には利用者と一緒に行った季節の壁飾り、日めくりカレンダーがある。温・湿度は職員が管理し空気清浄機を置いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、ベッド、クローゼット、3段ボックス、床頭台が備え付けられている。利用者はチェスト、タンス、テレビなど馴染みの物を持参し、動線に配慮しながら家具を配置している。家族の写真や、行事の写真など好きな物を飾り、居心地よく過ごしている。自分で掃除する人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		